

条をさしほとする方がよくはないかとも思われる。つぎき雑種の問題は採種林システム (Seed Orchard system) 一般についても当然考えられることであつ

て、共通の問題として将来の研究に期待がかけられる。さしあたりはつぎき台木の選定について研究を進め、一層活着と生育の向上をはかるべきであると考え

5. ヒノキ挿木について

出水営林署 田 中 豊

樹種	穂長	母樹年令	挿付月日	堆肥赤土		γナフタリン 醋酸 0.005% 12時間		ルートン 粉 剤		ルートン 液		トランス プラトン 液	
				発芽本	地上高	発芽本	地上高	発芽本	地上高	発芽本	地上高	発芽本	地上高
ス	30~40	27	30.10.25	6	22	2	29	11	28	9	28	6	28
ス	//	//	30.10.26	26	29	20	28	40	19	22	19	29	26
ス	//	//	30.11.25	62	39	79	31	65	31	82	33	66	40
ス	//	//	30.11.26	11	18	23	18	44	20	27	18	25	23
ス	//	//	30.12.25	60	41	70	36	84	33	85	35	95	31
ヒ	//	//	30.12.26	15	13	6	15	20	15	21	16	20	17
ス	//	//	31. 1.25	57	44	82	42	96	36	80	37	98	33
ス	15~20	5	31. 1.26	36	18	44	19	43	18	68	18	67	19
ス	30~40	27	31. 2.25	87	33	93	30	97	30	82	32	97	32
ス	15~20	5	31. 2.26	17	24	35	19	61	20	44	19	59	20
ス	30~40	27	31. 3.25	17	33	46	30	60	35	44	33	44	31
ス	15~20	5	31. 3.26	30	20	44	22	42	18	57	20	58	20
ス	30~40	27	31. 4.25	4	32	66	31	66	31	75	31	76	31
ス	15~20	5	31. 4.26	9	17	7	16	24	18	51	19	42	19
ス	30~40	27	31. 5.25	11	22	6	20	3	19	5	20	3	23
ヒ	15~20	5	31. 5.26	15	17	19	18	11	19	22	19	16	19
ス	30~40	27	31. 6.25	1	23	3	24	9	24	4	25	3	23
ス	15~20	5	31. 6.26	6	14	9	18	8	16	1	21	3	13
計	ス			305		447		481		466		488	
計	ヒ			165		207		293		313		319	

樹種	無処理		γナフタリン 醋酸 0.005% 24時間		28度の温湯処 理後γナフタ リン醋酸 0.005% 24時間		合 計
	発芽本	地上高	発芽本	地上高	発芽本	地上高	
ス	21	31	5	32	0	0	60
ス	22	19	5	14	13	24	177
ス	52	30	72	33	0	0	478
ス	10	21	19	22	13	19	172
ス	84	32	95	31	87	32	660
ヒ	21	17	8	16	10	15	121
ス	99	35	85	36	91	32	678
ス	46	18	53	18	19	17	376
ス	95	33	90	34	97	35	738
ス	49	19	56	20	48	21	369
ス	53	33	53	33	39	35	356
ス	67	21	69	22	59	19	426
ス	84	29	53	30	39	34	463
ス	48	19	43	18	23	16	247
ス	8	22	9	23	5	21	50
ヒ	22	20	15	21	11	21	131
ス	4	26	9	25	22	24	55
ス	2	16	10	18	6	18	45
計	500		471		380		3,538
計	287		278		202		2,064

1. 緒 言

現在のスギ挿木程度に迄発根させることが出来ないものだろうかという考えから、本年は昨年について第2回目として試験を行ったので、その結果の概要を報告する。

2. 試料及び方法

苗畑の実生ヒノキ苗一年生を資料とし採穂に際しては、穂長 24~26 cm を選び採穂後 γナフタリン醋酸 0.005% に 24 時間処理して、昭 32 年 2 月 9 日に 500 本挿付けた。そして地上高約 20 cm に日覆をなし、1 ヶ月後にその高さを 40 cm になおし、9 月初旬に日覆は除去した。

3. 結 果

昭和 32 年 11 月 15 日掘取つて調査した結果は別表の通り。山行苗 73%、床替苗 19%、計 92% で全然枯

損したものは僅かに5%であつた。

4. 考 察

これ迄も試験的に成功したが、事業的に失敗した理由を究明すると、採穂と挿付けとの時間の間隔が問題であろうと思料された。

苗畑の実生苗一年生からの採穂をなし1本から平均1本の側枝としても相当の穂がとれるものである。しかも苗畑からであるため採穂と同日に挿付けることも決して事業的に困難を伴うものではない。

- (1) 1~3月に挿付ける

- (2) 苗畑の山行き前の苗木より側枝をとつて挿付けると、発根良好、山行きも可能である。

- (3) 挿穂と挿付けは出来るだけ同日に行う

- (4) 日覆は必ず行う

以上の4点を実施すれば事業的にも決して失敗するものではない。

本年のようにヒノキ種子凶作の年に種不足のたしにさし木で補うることともなり得るものであるのみならず、今後は更に一步進めて挿木のみによるヒノキ育成に邁進しても、決して失敗するものではないという自信を深めた次第である。

6. Metaseqouia と杉の接木について

佐賀県林業試験場 原 信 義

1. 緒 言

最近林木育種が重要視され、精英樹の選抜が行われているが、その進展に伴い色々の問題が生じて来た。その一つに増殖方法の究明があげられる。

精英樹の挿木では一般に活着が劣り、別して小穂を用いることが多いため、1年間では発根発育が悪く、又採穂圃を作り採穂出来るまでには相当の年数がかかる。吾々は精英樹を発見してその形質が表現型か遺伝型かを早急に知る必要があるであり、一時も早く短期間に多数のクローンを生産せねばならぬ。

京大、長谷川氏は Metaseqouia の類縁種属間の究明に於て Metaseqouia 砧に杉を接いだ場合生育良好なることを明らかにした。このことから Metaseqouia は杉精英樹増殖に活用出来るのではないかという意図のもとに本試験を行い、2~3の結果を得たので報告する。

2. 材料及び方法

(1) 材 料

Metaseqouia 砧は當場で育成した1回床替2年生挿木苗の苗高2~3尺、根元茎は1.0cm~1.4cmで

第 1 表

接木別	項	砧木の堀取及び接木迄の措置	接木時期	接木後の管理		
				ポリエチレン袋かけ	日 覆	砧木の芽かき
居接切	(1)	堀取 圃場植付 32. 3. 3日 昭和 32年 2月 中旬 发育促進のためポリエチレンを接木までかける	昭和 32. 4. 6 (1回は3月28日に行つたが全部枯れたので2回接いだ)	接木後ポリエチレン袋にて接木部をおおい順次切り開き1ヶ月後には接木部が全部出る様にした	高さ50cm 2枚ヨシズをかけ順次とりはずし3ヶ月後には完全に取除いた	砧木をいためない程度に芽かきを行い7月下旬までに活着完全と思われものについては全部取り除いた
	(2)	圃場植付 32. 3. 3日	昭和(S) 32.3.9~10	〃	〃	〃
揚接切	(1)	接木まで圃場に仮植す	S 32.3.24~26	ポリエチレン袋かけは前者同様であるが接木後直ちに圃場に植付けた	〃	〃
	(2)	32.3月末に室内に入れ发育促進をなす	S 32.3.24~26	ポリエチレン袋かけは前者同様であるが接木後直ちに室内に仮植し5月21日に圃場に植付けた	無 日 覆	〃